



株式ベースのニーズ評価とレポート

ローリー・カスナが作成 & コモンウェルス コンサルティング A の Christina Qualls 氏ジェンシー LLC。



Commonwealth
Consulting Agency

目次

目的とコンテキスト	3
文書レビュー	6
学校Pポリシー	8
教育の公平性に関する政策	8
教育の公平性に対する明確な使命	10
株式行動計画	11
コミュニティのニーズを評価する	13
家族の関わり	14
責任の共有	24
学校あ管理	26
不当表示の監視	26
スタッフ	30
人材の多様化	30
先生の声	32
専門的な学習	38
MTSS	
サポート多言語対応 学習者	25
学生の声	36
結論	36
参考文献	39

目的とコンテキスト

公平性ニーズ評価プロセスは、公平性を実践することが何を意味するのかをより具体的に理解する方法を学区に提供します。yそして反省する現在の学校の方針、手順、実践が公平であり、多様な学習環境をサポートしているかどうか、そして包括的です。このレポートは、経済的に恵まれない学生、有色人種の学生、障害のある学生に焦点を当てた総合的な公平性ニーズ評価の結果を共有しています。、そして言語的に多様な人々。公平性ニーズ評価の広範な焦点を考慮すると、個々のグループの結果と経験を分析する際に行われるさらなる作業に具体的な推奨事項が示されることとなります。

このレポートの目的は、複数の組織から収集されたデータのレビューに基づいたニーズ評価です。豊富なソース。このデータを通じて、レポートは、影響によって測定された、より公平で包括的な実践に向けて移行するための推奨事項を特定します。この評価は過去の出来事の調査ではなく、そのような出来事について特定の結論を導き出すものでもありません。ここ数か月および過去1年間に起こった公平性と多様性に関連する大々的に報道された出来事を学校コミュニティとして修復するために行う必要のある作業を認識し、そのためのスペースを確保することが重要です。評価には再調査も含まれます建物の構造やシステムに対する表彰回復する影響を軽減し、再発の可能性を軽減します。分裂的な出来事の。

このニーズ評価には2つのコンポーネントが含まれています。まずは地区のデータと文書を見てみましょう。この情報のレビューからいくつかのパターンやテーマが現れ、推奨事項が得られましたが、データや文書は、多様性、公平性、包括性という観点から、地区内の人々の感情や日々の経験の全体像を明らかにしていませんでした。

ニーズ評価の2番目の構成要素は、フォーカスグループ、インタビュー、収集され、このレポートの著者と共有された調査データで構成されています。英語学習者保護者諮問委員会 (ELPAC) および特殊教育保護者諮問委員会 (SE PAC) とフォーカスグループが開催されました。マーシャル・シモンズ中学校とバーリントン高校の生徒とのフォーカスグループも開催されました。これらのグループに加えて、バーリントン管理チームのメンバーとの個別インタビューも実施されました。Panorama Education が作成した質問からなる3つの調査がバーリントンの有権者に送信されました。バーリントン学校の教育者および職員に関するアンケート。244件の回答が寄せられました。バーリントン保護者調査では英語版に366件、ポルトガル語版に9件、スペイン語版に0件の回答が寄せられました。また、4年生から12年生を対象としたバーリントン学生調査には1,659件の回答が寄せられました。コンティ教育長は、2023年のリーダーシップ調査データも共有した。

インクルーシブな実践は学校における公平性の核心です。Waitoller and Kozleski (2013) は、インクルーシブな実践を、異なるものとみなされている学生(障害のある学生、民族のおよび言語的に多様な学生、社会経済的背景が低い学生など)を有意義で公平なアクセスから組織的に排除することに対応して生まれた運動であると定義しています。教育への参加。バーリントンでは、過去数年間に、その行動と結果が伝統的に疎外されてきた人々のグループに悪影響を与えるいくつかの事件を経験しました。これらの事件はコミュニティ間の内部紛争を引き起こしました。具体的には、2020年6月にコンティ教育長は、バーリントンの学生がオンラインで示している偏見を非難する書簡をバーリントンの学校コミュニティに発行した。2年後の2022年6月、2人の学校管理者が公共のソーシャルメディアサイト上で学校コミュニティのメンバーによる人種差別的行為とみなされる行為について議論した際に、別のオンライン論争が起きた。そしてつい最近、2023年6月、コンティ教育長は、マーシャル・シモンズ中学校の生徒たちが看板を破壊し、「私の代名詞はアメリカだ」と叫び、赤白青の制服を着て登校したときの「不寛容」と表現する手紙の中で学校関係者に宛てた。プライドデーのお祝いに対する抗議とみられるもの。2023年6月1日に、マーシャルシモンズ中学校のスペクトラムクラブによってプライドデーの表彰式が開催されました。雨天時も含め、学校全体にプライドの視覚的シンボルが展示されました。弓の旗とポスター。また、生徒たちが着用したのは、虹色の服。2023年5月30日にマーシャル・シモンズ中学校でクリスティーナ・クオールズ女史と開催されたフォーカスグループセッション中、複数の生徒が「あれはとても同性愛者だ」などの無神経な言葉が日常的に使われていると報告し、ある生徒は特にいじめに基づくいじめを直接経験したと語った。彼女の性的指向について、そして「トランスジェンダーまたはバイであることを自認する学生はからかわれている」と語った。2人目の学生はその事件について具体的に話した。2人目の生徒は、多くの生徒がプライドデーとは何か、レインボーの服を着る目的を知らず、混乱や敵意さえ引き起こしているとクオールズさんに話した。

マーシャルシモンズ中学校を対象に調査された DESSA 社会感情学習データの中で、開発が最も必要とされる2つの能力のうちの1つは自己認識でした。生徒の18%がこのスキルの典型的な範囲内にあることが判明し、生徒の82%はさらなる指導が必要であることが判明しました。自己認識は、社会的感情学習評価によって次のように定義されます。の自分自身の感情、考え、価値観と、それらが文脈全体で行動にどのように影響するかを理解する能力。自己認識には次のスキルが含まれます。

- 個人的、文化的、言語的資産の特定
- 自分の感情を特定する
- 正直さと誠実さを示す
- 感情、価値観、思考を結びつける
- 偏見や偏見を調べる
- 自己効力感を体験する
- 成長マインドセットを持つ

- 興味と目的意識を育む

マサチューセッツ州初等中等教育省によるとリーダーレポート、バーリントン公立学校の現在の生徒数は3,412人です。過去20年間で、有色人種の学生の人口が増加しました。2000年には、この学区は87.1%が白人と認識される学生で構成されていました。今日現在、その数字は61.4%に減少しています。ここ数年、全体的な登録者数はかなり安定しています。しかし、人種人口動態には大きな変化が見られました。アフリカ系アメリカ人学生の人口は2.4%から7.3%に、アジア系学生は9.5%から17.6%に、ヒスパニック系学生は1.0%から8.8%に着実に増加しています。前述の増加は、これらの人種を代表するスタッフの増加とは相関していません。

DART for English Language Learnersによると、2019年5月と2023年3月を比較すると、英語学習者の数は148人(4.2%)から246人(7.2%)に増加しましたが、中程度の規模のEL人口の下位にとどまりました。DESEでは、中程度の英語学習者のステータスを、学区内に登録されているELL学生100～985人として定義しています。DART for English Language Learnersによると、2019年と2023年3月を比較すると、EL生徒とEL教師の比率は17.1から28.9に増加しました。これらの増加はACCESSスコアに影響を及ぼし、2019年の25%の熟練度から2023年の15%に低下しました。これは主に読み書きパフォーマンスの大幅な低下が原因です。また、ELの慢性欠席率も大幅に増加しており、2018年の13%から2022年の36%に上昇しました。英語学習者の家族の関与に関しては、ELPACメンバーによるフォーカスグループで報告されました。グループのメンバーシップは、グループが結成されてから2年間で5家族から20家族に増えました。

2010年から今日まで、経済的に恵まれない学生の割合は9.9%から20.4%に増加しました。

その文脈の中で、彼のレポートは、バーリントンの実践、プロセス、手順を意図的に評価することを目的としています。資本レンズ。Learning for Justice (正式にはTeaching Tolerance)は、南部貧困法律センターが資金提供しているリソースセンターです。強くお勧めします」中部大西洋岸株式コンソーシアム(MAEC)を通じて利用できる株式監査リソース。以下のレポートセクションは次の内容と一致します。MAEC(2020)によって通知された資本審査基準。

1. 学校方針
2. コミュニティのニーズを評価する
3. 学校運営
4. スタッフ
5. 専門的な学習

このレポートには、バーリントン公立学校の生徒団体の経験、意見、推奨事項を直接取り上げる生徒の体験に関するセクションも含まれています。

文書レビュー

この株式監査は、以下のリソース: 実施されたアンケート、保護者および生徒グループによるフォーカスグループ、地区行政との電子メールの交換や、公平なシステムの構築に関する査読済みの研究などです。

- [BEAMプログラムのレビュー](#)
- [23年度予算](#)
- カリキュラムマップ
- [DESSA 調査結果](#)
- [地区カリキュラム宿泊計画 \(DCAP\)](#)
- [地区プラン](#)
- マサチューセッツ州 [DESE 地区プロファイル データ](#)
- 人事マニュアルとオンボーディング資料
- マサチューセッツ州初等中等教育局リーダーレポート
- PD のサービスと登録レポート
- 学校カレンダー
- [学校委員会方針マニュアル](#)
- 学校改善計画
- 学生ハンドブック
 - [バーリントン高校](#)
 - [マーシャルシモンズ中学校](#)
 - フランシス・ワイマン、フォックス・ヒル、パイン・グローブおよびメモリアル小学校
ハンドブック
- 教育長年次リーダーシップ調査
- [階層型集中監視レポート](#) (2022年7月)



学校方針

セクション1

このセクションで検討する質問には次のようなものがあります。

- そうですかそれは学区には、人種、民族、社会経済的地位、出身国、英語学習者のステータス、性別、性自認、性表現、性的指向、宗教、障害のステータスに関連する分野において、特定の教育公平政策がありますか？
- 学区には教育の公平性に関する明確な使命宣言がありますか？
- ありません彼はd地区ポリシー、ミッションステートメント、現在の株式ニーズの分析に基づいて株式行動計画を策定しましたか？

教育の公平性に関する政策

学区には、広範な差別禁止通知の形で差別禁止に取り組む方針と、障害や性別に基づく差別禁止方針があります。さらに、バーリントン学校委員会は2020年7月に反人種差別決議を採択しました。

解決済み:バーリントン公立学校と連邦内のすべての学区は、人種差別的慣行が根絶され、生徒、家族、教職員に対して多様性、公平性、包括性が組み込まれ実践されることを保証しなければならない。

この目標の達成に向けて学区がどのような取り組みを行うかについて概要を記した具体的な教育の公平性に関する方針はありません。その情報は、調整された取り組みと成果を伴う戦略目標として、バーリントン成功計画の中に存在しますが、独立したポリシーとしては存在しません。

学区には、教育委員会によって採択された公平性に関する声明があります。バーリントン株式ステートメント

教育の公平性とは、すべての子どもが所属し、学業、感情、社会の可能性を最大限に伸ばし、日々学び成長するために必要なあらゆるサポートを受けられることを意味します。これは、すべての子供や個人の優しさと人間性を大切にすることから始まります。

地区計画は、DESE 成功計画モデルを使用して 2016 年に策定されました。計画は毎年更新され、2025 年まで継続されます。現在の文書には、2022 年から 2025 年までの地区の優先事項が反映されています。この計画は、公平性を新たに重視するという目標を具体的に示しています。そしてすべての生徒に正義を。この計画には、学習、公平、繁栄という 3 つの主要な戦略目標があり、その中心となるのは、能力、障害、年齢、性同一性、性別に関係なく、すべての生徒が学び、発達する機会を提供し、積極的で包括的な教育を行うという学区の取り組みです。文化のおよび言語的背景。

英語学習者で経済的に恵まれない生徒が大幅に増加していることを考慮すると、学区はポリシーや声明を再検討し、修正して、次のようなことを明確に挙げ、保護を提供する必要があります。これらの特定のアフィニティグループ。C検討中追加のポリシーに付与する必要があります。特定のニーズを持つグループの権利を確保する、含むがこれらに限定されません 不法滞在の学生および正式な教育が制限されているか中断されている学生。



推奨事項

学校管理者は学校委員会と協力して、すべての生徒のニーズに焦点を当てた教育の公平性に関する方針を策定する必要があります。これは差別に対する政策と同じではなく、公平な機会と結果を中心とした積極的な政策です。地区戦略とは異なり、期間が定められているわけではありませんが、当面は政策の一部として残ります。

ポリシーの実施をサポートするために考慮すべきコミットメントの例:

1. 体系的に、必要に応じて、人種/民族、性別/性自認、国籍、言語、特殊教育、社会経済的地位、流動性ごとに分類された学区全体および個別の学校レベルのデータを使用して、学区の意思決定に情報を提供します。
2. 生徒全員の学力を高めます。
3. 多様な地域社会、国内社会、そして世界規模のコミュニティで成功する準備ができていないすべての学生を卒業させます。

4. グループを構成する人々の具体的なニーズに焦点を当てます。これらのニーズは、1つの広い用語では表現できない可能性があり、より具体的なサポートが必要です。

アクションステップの例

1. すべての生徒に文化的に関連したカリキュラム、指導、サポートを提供します。
2. 教育の公平性を地区職員全員の優先分野として、専門能力開発カレンダーを作成します。
3. 従業員の多様性を高めるために、採用、雇用、定着を含む人員配置手順を見直します。
4. グループを侵害する人々の特定のニーズに対処するために、証拠に基づいたプログラミングを定義します。

教育の公平性に対する明確な使命

この学区には、教育の公平性に重点を置いた明確な使命があります。地区の使命:

バーリントン公立学校の使命は、生涯学習、自給自足、責任ある公平性に必要なポジティブな自己イメージと帰属意識を育む方法で、すべての生徒が体系化された知識を獲得し、創造的かつ知的スキルを習得し、アイデアを理解できるように支援することです。市民権。

学区には、学区戦略を推進するビジョンもあります。

バーリントン公立学校のビジョンは卓越性を目指して努力しており、それは以下によって達成されます。

- 厳格でバランスのとれたカリキュラムを提供することで、生徒が自分の可能性を最大限に発揮できるよう支援します。
- BPS の使命とビジョンに献身的に取り組む、高度な資格を持つ多様な教師、管理者、サポートスタッフを雇用します。
- 生徒の学業の成功を促進するために、学校との関わりを通じて、親が子供の教育に積極的な役割を果たすよう奨励します。
- すべての生徒に質の高い教育プログラムを提供するという目標と利点を強化するために、地域住民が学校活動に参加する機会を提供します。

教育の公平性を具体的に明確にしながら、学区の使命とビジョンを調整することは、進行中の戦略的取り組みを支援するための有益な次のステップとなるでしょう。さらに、ミッションでは、地区が目標を達成するために何を行っているかについて説明します。ミッションは最終的にはビジョンにつながるはずですが、焦点が完全に一致していません。のビジョンは包含します 家族やコミュニティとの連携は、ミッションでは無視されています。

株式行動計画

バーリントン公立学校は、地区成功計画の計画において公平性を重視する姿勢を示しています。株式には特定の目標があります。目標には次のように書かれています。やりがいのある学習環境を作り出すことで、すべての学習者が本来の自分でいられるよう教育し、高い学力基準と成果を達成できるようにします。

学区の重要な取り組みは、2つの形式のデータにおけるこれらの意図の影響に焦点を当てることです。より公平な参加と成功への達成とアクセスに関する学生の定量的な成長データと、有権者の認識における公平な経験を反映する定性的なデータです。



推奨事項

- 学区の使命とビジョンを調整しながら、進行中の戦略的取り組みをサポートするために教育の公平性を具体的に明確にします。
- [を実施します。根本原因分析](#) そして優先順位に対処するための論理モデルを開発し、必要なシステムと戦略を持続的に展開、実装、監視するために現在の行動計画を作成または変更します。計画には取り組みと成果が定義されています。しかし、最近の出来事を考慮すると、適切な進歩が見られない、またはさらなるニーズが特定されているものを再検討することが重要となるでしょう。このステップにより、症状ではなく根本原因に合わせた取り組みが行われるようになります。
 - 例えば;潜在的なバイアスの作業は、暖かい要求者になるための専門能力開発の前に行う必要があります。温かい需要という概念は、すべての学生が学ぶことができ、高い期待に値するという信念に基づいています。暗黙の偏見が期待値の低さの根本的な原因です。期待値が低いというのが症状です。
- 地区戦略で使用される指導モデルとして MTSS を具体的に特定し、すべての言語と目標を哲学と枠組みに合わせます。
 - サブ分離指導の増加に関する目標と、BEAM プログラムを含めて生徒を「レベル」によって分離する現在のプログラミングの存在について振り返ります。
 - 「ライフスキル」と「修復」に関する文言は、MTSS に合わせて再考される必要があります。
 - [サポート階層のフローチャート](#) MTSS に焦点を当てて再検討する必要があります。Tier 3 は特殊教育紹介プロセスと同義ではありません。
 - 専門能力開発には、すべての学習者にとって挑戦的でアクセスしやすい学年レベルの指導を設計す

るための学習のユニバーサル デザインに重点を置くことが含まれるようにします。

- 地区レベルの一部として MTSS のリーダーシップを明示し、管理者と教師のリーダー向けの職務内容に基づいた職務内容を構築します。これには、指導コーチ、PLC ファシリテーター、部門長が含まれる必要があります。



コミュニティのニーズを評価する

第2節

このセクションでは、次の質問について検討しました。

- 学校/学校システムには、すべての学校職員とすべての家族の参加を奨励および提供し、地域社会のパートナーシップを維持する、家族の参加のための計画がありますか？
- 学校の計画、支援、ガバナンスに関わっている家族や地域のメンバーは、人種、民族、社会経済的地位、出身国、言語、性別、性自認、性表現、性的指向、宗教、障害の状況などに応じて学校コミュニティを代表しているのでしょうか？

家族の関わり

地区の公平性への取り組みでは、次のことが重要です。持っているさまざまなステークホルダーのニーズを高め、尊重するフィードバックの定期的なサイクル。学区が、地区計画、フォーカスグループや傾聴セッションを実施することで、家族を巻き込むことが重要になります。アメリカ研究機関 (AIR) (2018) Uナイトステイト教育省は次のガイドラインを公開しました[公平な家族の関与](#)。彼らは提案する学区は家族との定期的な傾聴セッションのための仕組みを提供する必要があります、と。書面によるフィードバックも役立ちますが、**1**、それは障壁となり、変革エー

ジェントとして家族と提携する可能性は低くなります。さらに、彼らは、参加することの重要性にも言及しています。多様な言語を話し、同じ文化を持つコミュニティメンバーの価値を活用するコミュニティ連携。増加中学校におけるそのようなコミュニティパートナーの存在活動と決定は、学校の人材を多様化し、生徒の主体性をより反映させるための効果的な実践でもあります。

成功のための計画には、保護者や地域住民と連携するという目標が地区のビジョンに具体的に含まれています。さらに、英語学習者のセクションには、具体的な取り組みと戦略が含まれています。

- 英語データチームへの保護者の参加
- ELの保護者の学校への関与を増やすという明確な目的を持った、英語保護者諮問委員会の定期的な会議。
- ELLファミリーをサポートするために外部機関とのつながりを構築します。

特殊教育に関連する取り組みや成果では、親のパートナーシップと参加が明示的に取り上げられていません。

フォーカスグループの反応

保護者と地域社会の声は、英語学習者保護者諮問委員会 (ELPAC) と特殊教育保護者諮問委員会 (SEPAC) のフォーカスグループ、および家族とコミュニティ調査のニーズ評価の作成者と直接共有されました。ELPAC フォーカスグループには 13 人の親が参加し、SEPAC フォーカスグループには 15 人の親が参加しました。ELPAC と SEPAC は、マサチューセッツ州のすべての公立学校に、学校の方針を検討するための諮問委員会として義務付けられています。すべての公立学校におけるこの要件の実施を評価する DESE 段階的集中モニタリング報告書からの州データに基づいて、これらのグループは参加と一貫した会議にしばしば苦勞しています。バーリントンの ELPAC と SEPAC は両方とも、一貫した会議とメンバーシップを報告しました。ELPAC は、学区内の 5 ～ 20 家族の英語学習者の増加に対応する会員数の増加を具体的に報告しました。ELPAC のメンバーシップには、学校コミュニティ内で話されているさまざまな言語の代表者が含まれます。ELPAC のメンバーは、EL コミュニティ内での成長と情報共有能力は学校管理者の支援のおかげであると考えています。どちらのグループも、両部門の現在の管理者からの一貫した存在、サポート、つながりを報告しました。

SEPAC は、中央事務局や学校委員会に対する諮問委員会として機能していないと感じていると報告した。複数の委員は、学校委員会が彼らの意見や要求に対して否定的かつ敵対的であると報告した。成功のための計画文書には、学校コミュニティとこれらのグループとのパートナーシップを強化するという目標が具体的に含まれていることに注意する必要があります。ELPAC と SEPAC の具体的な目的は、初等中等教育省の以下の文言で定義されています。

以下は、PAC に関連する第 71B 章のセクション 3 からの抜粋です。

「...。市、町、または学区の学校委員会は、特殊教育に関する親諮問委員会を設立するものとする。会員の資格は、障害のある児童のすべての親およびその他の利害関係者に提供されるものとする。親諮問委員会の任務には、次のことが含まれるが、これらは含まれない。」保護者諮問委員会は、障害のある生徒の教育と安全に関する事項について学校委員会に助言すること、学校関係者と定期的に会合して、学校委員会の特殊教育プログラムの計画、開発、評価に参加すること、に限定されるものとする。役員および運営手順に関する規則を制定する。本条に基づく任務の過程で、保護者諮問委員会は、スタッフとリソースの空き状況に応じて、合理的な通知に基づいて、無償で学校委員会から援助を受けるものとする。...」

フォーカスグループから得られた主要な調査結果は以下に含まれており、推奨事項に反映されています。

- フォーカスグループの参加者と調査の回答者は、コミュニケーションに関する家族の経験を一貫して報告しており、その経験は学校によって大きく異なります。中学校レベルから高校まで続く、積極的でアクセスしやすいコミュニケーションが大幅に減少したことが複数の参加者によって報告されました。これは、家族からの調査でのフィードバックと一致していました。
- 中等教育レベルの教師が一貫して配慮を実施していないことは、調査とフォーカスグループの両方で多くの保護者によって共有された。この声明は、SEAC と ELPAC の両方のフォーカスグループで複数の保護者によって、保護者と教師の両方への調査、学区管理者から提供された情報の中で行われました。主要な声明は以下に含まれます。個人の身元を保護し、単一の意見を避けるため、これらは正確な引用ではないことに注意してください。5人以上が同じ気持ちを共有した合成バージョンです。
 - 中等教育の教師は、どのような配慮を提供すべきか、提供すべきではないか、また IEP または 504 から生徒に何を提供するかについて、独自の信念を伝えます。
 - 環境整備に一般教育側のさらなる取り組みが必要な場合、それが一貫して実施される可能性は低いです。
 - 教室の教師は便宜を提供しませんし、教師に責任を負わせる人もいません。
 - 学校主催のものも含め、学校外で開催される活動やイベントには宿泊施設は提供されません。その結果、特に重度の障害を持つ生徒、障害の発生率が低い生徒、および英語学習者の参加能力が不公平になります。これらのイベントはユニバーサルに設計されたものではなく、障害を経験する可能性のある家族や学習者からの意見をもとに計画されたものでもありません。
 - の地区カリキュラム宿泊プランは使用されません。多くの教師は、宿泊施設が IEP または 504 に基づいていない場合、生徒はそのようなサポートを受けることができないと考えています。
 - 学区外に配置された生徒には学校とつながる機会がありません。
- 多くの保護者は、IEP を通じたサービスの要求に応じて「ここではそのようなことはしません」と言われたと報告しました。
- サブ個別プログラムの学生は、学生のグループに「その他」というラベルを作成する同僚やスタッフによってプログラム名によって識別されます。これは、LABB プログラムに参加している学生に特によく見られると報告されています。

- 両グループは、特殊教育部門と英語学習者部門の管理部門が知識が豊富で献身的であることを共有しました。これらのグループの複数の参加者も、これらの学部の教師が協力的で思いやりがあると述べました。
 - ELPACメンバーは、必要に応じて翻訳や通訳を含む初級レベルで優れたコミュニケーションを受けていると共有しました。第二の親は、強いコミュニケーションを報告しなかった。第二の親共有;重大な発表だけが共有され、学校は何かが起こったときにのみ連絡し、親は学校で何が起きているかを知るために子供に頼らなければなりません。
- フォーカスグループと調査に参加する保護者は、マーシャルシモンズ中学校のBEAMプログラムとして知られているものを参照しています。彼らはプログラムの目的と目標について困惑を表明した。さらに、多くの回答者は、学生がプログラムに参加する方法に関して公平ではないと感じていました。このプログラムは最近、独立したグループによって完全に評価されました。この文書は著者によってレビューされ、このレポートで参照されています。
- ELPACメンバーは、特に家族の英語学習をサポートするための支援が学校内にあると報告した。

親と家族のアンケートの回答

保護者調査は、登録者数に基づいて学校全体の回答という点で比例していました。また、入学者数に占める英語学習者と特殊教育の割合に関しても比例していました。回答は学校コミュニティの人口統計を正確に反映していませんでした。生徒の61%が自分を白人であると認識している一方で、回答者の75%が自分の子供は白人であると回答しました。他のすべての人種および民族グループも、回答において過小評価されていました。

回答は以下に要約されます。

- 回答者の76%は、学校が子どもの次の学年への準備を十分に整えていると感じています。
 - 61.4%の教師が高い期待を抱いていると回答
- 回答者の55%は、学校は子供に必要な社会的感情的サポートを常に提供していると感じており、さらに37%の回答者は、そのようなことが時々起こると感じています。
 - 回答者の77%は、自分の子供が学校で多大な帰属意識、またはかなりの帰属意識を経験していると報告しました。
 - 80%の保護者が、子供の学校が歓迎されていると感じていると回答しました。
- 回答者の74%が、子供の学校での規律アプローチがうまく機能していると感じました。
- 88%の保護者は、学校での活動が子供の興味と少なくともある程度一致していると報告しました。
 - 82%の家族が、子どもの文化的背景が学校に非常に適している、またはかなり適していると報告しました。16%がある程度またはわずかに良いと報告し、2%が全く良くないと報告しました。
 - 保護者の77%は、子供の学校が生徒に互いの違いを尊重することを奨励していると報告しました。

- 親の96%は、子供たちが少なくとも一定の時間学校で異なる民族、文化、人種の人々について学んでいると報告しました。
- 72%が、自分の子供は常に学校コミュニティの貴重なメンバーであると回答しました。

調査の質問に対する回答の概要に加えて、質問に応じて提供された情報を認識することが重要です。「他に何か私たちと共有したいことはありますか？」以下の情報は、複数の回答者が同じ意見を共有した場合に提供された情報を総合したものです。これらは直接の引用ではなく、同じトピックに関する複数の引用から取られたものであることに注意することが重要です。より大きなコミュニティを反映していない単一の声を高めることを避けるために、著者は、他のデータソースで三角測量できる可能性があり、5人以上の回答者が同じ種類のフィードバックを共有した回答のみを含めました。

- コミュニケーション方法の違い、中等教育レベルでの社会的・精神的サポートの減少、中等教育レベルでの配慮の欠如などを考慮すると、小学校から中学校への移行は家族や生徒にとって非常に困難です。
 - 多くの保護者は、支援的であり、中等教育レベルでこの問題を改善するために取り組んでいると認識されている教師や管理者を具体的に特定しました。
- 保護者は、いじめとみなされるものが中等教育レベルで適切に対処されないことを懸念しています。
- 回答者は、公平性と公平な慣行に対する理解を高めることに重点を置き、協調して取り組んでいることを認めています。しかし、多くの回答者は、その回答に基づいて、実際の教室での指導の公平性に十分焦点が当てられていないと感じました。
- 学区内には重度の障害を持つ生徒に無料で適切な公教育を提供する機会が十分になく、その結果、多くの生徒が学区外に転校させられている。
- 学区外に配置された生徒には、地域社会とのつながりを維持する機会が与えられません。
- ほとんどの親の小学校レベルでの経験に関して、フィードバックは肯定的でした。
- 回答者の多くは、教師や管理者の懸命の努力に感謝の意を表しました。
- 回答者は、教室での参加レベルに懸念を表明しました。複数の親は、実際の理解や関与ではなく、子どもが従ったことで報われたと感じたと回答した。
- 回答者の何人かは、学区全体で障害のある生徒を教育上および社会的に有意義に受け入れることにさらに重点を置く必要があると述べた。
- 数人の回答者は、神経多様性の理解に関して、生徒と教師に対するさらなるサポートが必要であると感じました。

複数の調査回答が、教育の公平性の概念に対する支持または理解の欠如を示していることに留意すべきである。これらには、次のような記述が含まれていました。

- 公平性の取り組みにより学校の厳格さが低下している
- エクイティ・ワークは、教育に対するアファーマティブ・アクションのアプローチであり、優秀な成績を収めた生徒が受けるべきものを得ることを妨げます。
- 公平な取り組みは学校の役割ではなく、教育者の個人的な信念体系を子供たちに教え込む

- 公平な取り組みにより、特定のグループの学生が規律を回避し、責任を問われなくなる
- 公平性に関する取り組みの結果、バーリントンの学校で重要な人種理論が教えられるようになりました。

著者らと共有した2023年の教育長年次調査にも同様の意見が含まれていた。コンティ博士の調査に対する自由回答では、「逆人種差別」に対する反応の欠如、多様性、包括性、社会的および感情的な学習活動をやめるよう求める声、批判的な人種理論が教えられているという信念、および「不法学生の状況に対処する」という要請。

この取り組みを前進させるには、これらの信念に対処する必要があります。コンティ博士のリーダーシップ調査や報告書の著者らが実施した調査には、この研究への支持を示す多くの回答が寄せられているが、否定性と誤解のレベルは、たとえ影に置かれていたとしても、この研究を妨げ続けるだろう。この問題には、学校委員会のメンバー、保護者評議会のメンバー、その他の公的代表者を含むすべての学校指導者が直接対処し、正確な情報を提供して一貫して対応する必要があります。書面または口頭で共有された偏見を示す不正確な情報に対する反論として、リアルタイムで回答を提供する必要があります。公平性、人種差別、包括性のトピックについてコミュニティを教育するための追加のコミュニケーションは、アクセスしやすく継続的な方法でコミュニティを教育するために、複数の形式のメディアを通じて積極的に提供される必要があります。信念体系を、生徒や学校職員が保護階級の一員として法的に保護される権利を持つ差別から切り離すことが重要になるだろう。

2年前にこの地区で家族・地域活動コーディネーターが雇用されました。この役職は最近、予算削減のため空席となり、他の役割に吸収された。この役職を他の役割に吸収することで、家族が衣類や地域の診療所を利用できるようにリソースを調整するという仕事に焦点が当てられなくなりました。家族との多様性、公平性、包括性に関する取り組みの一部を包含するようにこのポジションを再構築することが推奨されます。この役割は、増え続ける多様な家族、特に地域社会で英語が第一言語ではない人々や、一部の回答が示すような誤解、偏見、差別によって伝統的に疎外されてきたグループの一員である人々を支援する上で極めて重要です。証拠を永続化し、提供することがコミュニティ内で確立されています。。

保護者や教職員からのアンケート回答では、公平性、多様性、包括性は、学校システム全体を構築する核となる価値観ではなく、別個の取り組みであり信念体系であるという信念が一貫して示されています。この取り組みを前進させるには、すべての家族のパートナーシップと関与を促進し続けることが重要です。公平性の取り組みは、バーリントン公立学校システム全体が行うものとして明確に定義されるように移行する必要があります。委員会やグループが単独で行うものではありません。バーリントンの学校では、公平な取り組みは文書内の文書で定義されていますが、この取り組みは、独立した取り組みではないというすべての構成員の考え方を変えるために、視覚的に識別可能な行動で一貫して定義される必要があります。家族および地域社会参加コーディネーターの役割は、この仕事を地域社会に影響を与える立場に組み

込み、家族や地域社会のメンバーに影響を与えるすべての決定において公平性が重視されるように行政と協力して取り組むこととなります。

このポジションの職務内容は、次の6つの中核分野に重点を置く必要があります。

1. すべての人を歓迎する
2. すべての子供と若者の成功をサポート
3. それぞれの子供と青少年の擁護
4. 教育の公平性における権限と責任の共有
5. コミュニティとのパートナーシップ
6. 家族や学生のイベントを計画する

このポジションが居心地の良い環境を作り出すためには、目標とフィードバックループを明確にし、学区が家族や地域社会の関与のレベルを常に反映できるようにデータに基づいた意思決定の文化を作り出すことが重要です。このポジションの目的の1つは、黒人、アメリカ先住民、ハワイ先住民、アラスカ先住民、デジ、アジア人、太平洋諸島系、チカン系、またはラテン系と自認する家族にとって、安全で歓迎的な環境を作り出すことです。

この立場の取り組みの一環として考慮すべきことの1つは、家族をより適切にサポートするためにデータをさらに細分化することかもしれません。教育統計に関する全国フォーラム(2016年)は、人種/民族サブグループに関するデータを細分化するためのベストプラクティスを特定するために、人種/民族サブグループのデータ細分化ワーキンググループを招集しました。レポート、[人種および民族サブグループに関する細分化されたデータを収集および使用するためのフォーラムガイド](#)では、学生と家族をサポートするためのより公平な道筋を作成するために、学区がデータの細分化にどのように取り組むことができるかについて、多数の事例研究を提供しています。ある事例研究では、アーカンソー州スプリングデール学区(p.53)が生徒と家族のニーズをより適切に満たすために家庭言語調査フォームと保護者/生徒インタビューフォームをどのように改訂したかについて概説しています。

さらに、家族が生まれた後も家族をサポートすることが重要であるため、あらゆるレベルで親が関与するためのシステムとプロセスを構築し続けることが、堅実な家族をサポートするために重要になります。そして公平なシステム。

定期的にニーズの評価や振り返り活動に取り組むことで、学校や学区は一時的な成功を活用し、必要に応じて戦略を変更できます。家族との関わりにおけるベストプラクティスには次のようなものがあります(AIR、2018)。

- 学校全体および学区レベルの主要な委員会および意思決定機関に、家族、信仰に基づく組織、地域ベースの組織の代表を確保する

- 家族のニーズに対応できるよう、柔軟なスケジュール設定、通訳、保育を含む保護者諮問委員会のシステムを構築する
- 使用[ワールドカフェモード](#) | 家族と情報を共有し、家族の懸念やフィードバックに耳を傾けます。このモデルでは、家族同士がネットワークを築き、他の家族の視点を聞くことができます。このアプローチはまた、家族を教育システムの専門家として位置づけ、彼らの意見の価値を強調します。

結論として、AIR (2018) 文書では次のように共有されています。特にコミュニティの人口動態や文化が急速に変化する可能性があることを考慮すると、コミュニティのニーズが時間の経過とともに変化するにつれて、これらの戦略は修正する必要があるかもしれません。』(p.13)。



推奨事項

- 言語を話し、多様な家族と同じ文化を持つコミュニティメンバーの価値を活用する、家族との定期的なリスニングセッションの構造と手順を作成します。特に、コミュニティ内の発言力や存在感が少ないグループに焦点を当てます。
- 多様性、公平性、包括性に関連する地区の取り組みについて、コミュニティに複数のアクセス方法を通じてリソースへのアクセスを提供します。
- SEPAC、ELPAC、および学校委員会とのリトリートまたは合同トレーニングセッションを検討して、学校管理者とのやり取りにおけるすべてのグループのコミュニケーションラインと役割と責任を確立します。SEPACとELPACの諮問グループとしての役割を定義し、実際に権限を与える必要がある。MASCのDorothy Presserが、このサポートを調整し提供するためのリソースとなります。
- 障害のある学習者とその家族の参加に対する障壁を考慮した、学校主催の放課後活動を設計するための一貫したプロセスを開発する必要があります。これは、変更を加える際の一人称体験と意見を得るため、家族と一緒に理解する重要なトピックです。
- 学区外に配置された生徒とその家族のためのすべての個別教育プログラムの一環として、地域社会とのつながりに特に取り組んでいます。これは、14歳から始める学生向けの移行計画フォームの一部であることが明示されています。これは、ビジョン、PLEPBの対応、および低年齢の学生向けの目標の一部として扱うことができます。学区外

に配置される生徒の割合が州の目標よりも高いことを考えると、地区率: 14.9%、州目標: 6.4%これは、適切な支援を受けて公立学校に再入学するための目標を組み込むために検討すべき領域です。

- 地区カリキュラム宿泊計画は改訂され、再検討されるべきです。2014年に策定された計画にはMTSSが反映されていません。それが改訂され再検討されたら、それが何であるか、すべての学習者に柔軟性を実装する方法について、すべてのスタッフに専門能力開発を提供する必要があります。中央オフィスの管理者のリーダーシップの下でこの作業を行うための委員会を設立することが推奨されます。参照すべきユニバーサルデザインDCAPのモデルは複数あります。
- 神経多様性、反人種差別、偏見などのテーマについて、学生、家族、スタッフ向けのファシリテーターや専門能力開発プロバイダーを選ぶときは、一人称の声を優先してください。
- 小学校から始まるベストバディや年齢に応じた代替案などのプログラムを構築し続け、すべての生徒にとって真の有意義な関係を育み、学問的包摂に加えて社会的包摂を促進します。このプログラムの鍵となるのは、障害の有無に関わらず、階層やラベルに基づいていない本物の機会を提供し、共通の目標や活動を中心とした関係を築くことです。これは、高校のユニファイドスポーツバスケットボールで実施されており、陸上競技などの追加のサービスにも拡張される可能性があります。
- 調査を実施する際、フォーカスグループは差別的な発言を注意深く監視し続けます。ダイバーシティとインクルージョンを損なう「善意を前提とする」や「あらゆる視点が尊重される」などの規範に注意し、多様性の形態に関する軽蔑的な発言の影響に注意を払わないでください。コミュニティから受け取った回答のテーマである人種に関する発言には特に注意を払う必要があります。
- より広範な学校コミュニティを対象とした積極的なコミュニティ教育のための複数の方法が、リソースの提供、コミュニティの専門能力開発の夜、公共のフォーラムでのプレゼンテーションを通じて導入されるべきです。すべての資料

は、すべての視聴者がアクセスできるかどうかを確認する必要があります。トピックは、これらのトピックに関する能力構築という点でコミュニティのニーズに対応する必要があります。ニーズは、年間を通じて実施される調査データとフォーカスグループを通じて特定される必要があります。



推奨事項

- 前提条件、開始基準と終了基準を備えたすべてのプログラムを確認し、データの証拠としてすべての学生集団にわたる公平な影響を分析し、すべての学習者グループの比例代表を分析します。これには、BEAMプログラムレビューの推奨事項の実施が含まれます。その報告書で特定された同じ懸念事項と調査結果の多くが、この監査でも関連付けられています。
- 家族とコミュニティの連絡役職には、英語学習者戦略計画の目標に特に焦点を当てた、家族とコミュニティの関与に関連する地区戦略活動の成果に合わせた明確な職務内容を記入することが推奨されます。また、英語学習者における慢性欠勤の増加と卒業率の低下を、このポジションの重点分野とすることをお勧めします。

責任の共有

それミッションと教育の公平性計画の策定には、関係者を代表する人々を関与させ、信用させることが重要です。の [地区戦略](#) 区のウェブサイトでも共有されています。序文には次のように記されています。コンティ警視は、2022年から2025年までの計画策定の開始にあたって、包括的で協調的な意思決定と双方向のコミュニケーションに対する信念とコミットメントを前提としていた。成功への計画プロセスに参加し、地区の指導者チームおよび建物の校長と面会しまし

た。これらの会話は、卒業生のプロセスのポートレート、BPSの公平性に関する声明、そして生徒たちが学校で確実に成長し成長できるようにする方法に基づいていました。」

文書の最後には、計画に貢献した地区のリーダーが定義されています。コンティ博士は、学校のレベルに応じて学校評議会や保護者教師組織もこの取り組みに貢献する機会があると明らかにした。SEPACまたはELPACが参加する親グループを特定するものではありません。計画の策定に学生が直接参加したことを示す文書はありません。従来の行政上の指導的役割以外のスタッフの声がどのように集められたかを検討することが重要になるだろう。意見を提供し、直接参加する機会を与えられたグループを拡大することは、人種、性別、社会経済的地位、文化を越えて発言力と代表を増やすために重要です。将来の改善サイクルでは、利害関係者の関与のプロセスを明確にして共有し、学校ベースのスタッフを超えて計画に貢献したグループや個人を特定することが有益です。例えば、[この戦略的計画](#)というのは、ワシントン州のベテル学区は、計画の策定に貢献したすべての利害関係者とその利害関係者グループを特定しているからです(14~15ページを参照)。



推奨事項

- 関連する利害関係者グループに、ミッションステートメントや公平性計画、学区戦略や学校改善計画の策定に参加してもらうことが重要です。
- 公平性の使命と行動計画の策定における利害関係者の関与のプロセスを明確にして共有し、計画に貢献したグループや個人を特定します。
- 計画が策定されている学生団体やコミュニティを代表する多様な利害関係者のグループから適切な代表がいることを確保します。
- 学生団体の人口統計を代表する学生の声を直接提供する方法を確保することが優先されるべきです。



学校管理

セクション 3

このセクションで回答される質問は次のとおりです。

- 特殊教育における入学状況は監視されていますか 言語、性別、人種、民族グループの不均衡な表現に関する上級コースはありますか？
- データは、さまざまな人種、民族、言語グループごとに定期的に収集、分類、分析されていますか？

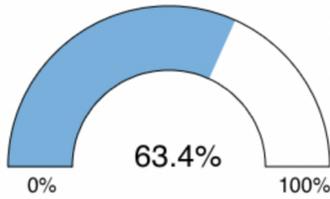
不当表示の監視

不均衡とは、特殊教育における人種的または民族的少数派グループの、生徒集団全体におけるそのグループの存在と比較した、そのグループの過大評価または過小評価のことです（Strassfield、2017）。マサチューセッツ州 DESE サイトの学区プロフィールでは、学区が特殊教育や規律の実践において不均衡な過剰代表を持っているかどうかを特定します。ほとんどの場合最近の[地区プロフィールデータ](#)、バーリントンはそうしません。特殊教育や停学・退学の割合が不釣り合いに多い。

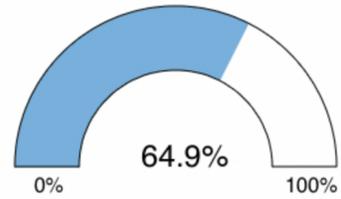
ない一方で、不均衡特殊教育や専門分野のデータで表される有色人種の生徒については、州の目標である 6.4% に対して 14.9% である学区外の人口を含めて監視する必要があるデータ領域が他にもあります。幼児期包括的環境で個別教育プログラムを通じてサービスを受けている子どもの数は 32.7% で、州の目標である 52.3% をはるかに下回っています。

私学区は、広範で挑戦的なコースワークへのアクセスにおける不釣り合いな表現を監視するための内部手順を作成する必要があります。この分野におけるアクセスの不平等は、特に上級コースへのアクセスにおいて顕著です。上級コースワークは、少なくとも 1 つの上級コースを完了した 11 年生と 12 年生の生徒の割合として定義されます。上級コースには、アドバンスト・プレースメント、国際バカロレア、プロジェクト・リード・ザ・ウェイ、単位取得のための二重登録、承認された職業/技術協力プログラム、その他の厳格なコースが含まれます。

全生徒

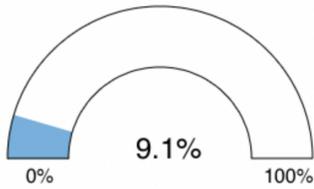


Our District

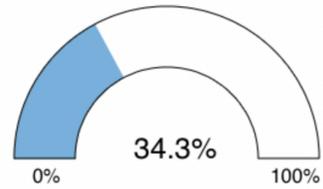


Massachusetts

障害のある学生

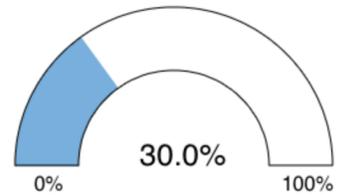
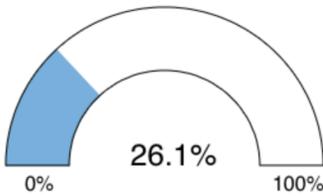


Our District



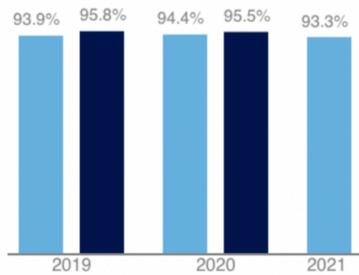
Massachusetts

英語学習者

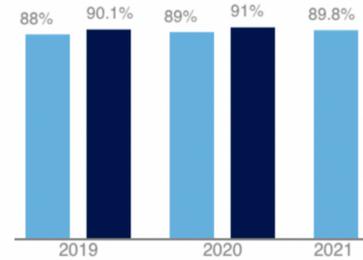


不均衡な表現のさらなる焦点は、英語学習者の4年および5年卒業率です。英語学習者の増加に伴い、これらの割合は減少しました。この影響はヒスパニック系とラテン系の学生に特有のもので、これは、学区の中等教育レベルで入学する限られた、または重大な教育中断を受けた生徒の増加と関連していることが行政によって共有されました。

全生徒



Our District

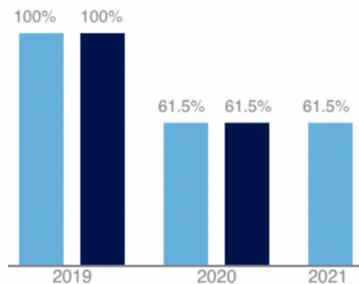


Massachusetts

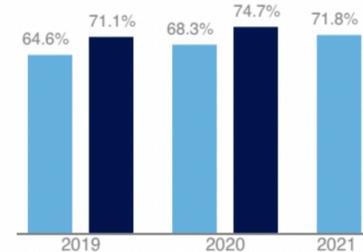
■ 4-Year Graduation Rate

■ 5-Year Graduation Rate

英語学習者



Our District



Massachusetts

■ 4-Year Graduation Rate

■ 5-Year Graduation Rate



推奨事項

- リソースのレビューには、特定の学校で利用可能な高度なコースワークの監査、および参加と成功のデータの理解が含まれる必要があります。
- 学生の試験への参加率や合格率など、上級コースワークに関連するその他のデータを分析し、これらのデータを使用して、最もメリットが得られる学生向けの上級コースワークの拡張や準備をターゲットにします。
- データへの影響について、英語学習者、特に正式な教育が制限されている、または中断されている学習者向けのプログラミングを確認します。卒業を含むベンチマークに到達することに重点を置きながら、これらの学習者の固有のニーズを満たすために、既存のプログラミングに柔軟性を組み込むオプションを検討してください。
 - バーリントン高校改善計画には、卒業を含む成果への影響によって測定される、文化的に適切な指

導を増やし、あらゆる分野で文化的に実践を維持することに重点を置いた公平性目標が含まれています。

- バーリントン英語学習者成功計画には、EL および SLIFE の生徒の高校卒業を増やし、厳格なコースワークと適時の卒業への障壁を取り除くための取り組みが具体的に含まれています。計画で特定されているように、これには、この学習者集団に対して文化的に偏った障壁を取り除くために、すべての構造とシステムの見直しが必要になります。教室環境で英語学習者の成果を高めるための実践の実施に関するコーチングを含む広範な専門能力開発を計画に含める必要があります。
- バーリントン英語学習者計画は、成果に合わせた取り組みを含むようによく開発されています。目標は適切に野心的なものです。この仕事を遂行するためには、人員体制を確実に整えることが重要です。人員配置の見直しに基づき、近年、ニーズの高まりに伴い英語学習者教育者の仕事量が増加しています。定められた計画の目標を達成するための教育者の能力を評価し、必要に応じて配置を調整することが重要です。



スタッフ

セクション 4

株式監査のこのセクションを推進するために、次の質問が使用されました。

- 高い資格を持った教師は、生徒の人種、民族、社会経済、出身国、言語、性、性別または性自認、宗教、性的指向、または障害ステータスの構成を代表していますか？
- 採用および定着戦略は、従業員の多様化のベストプラクティスに沿ったものになっていますか？
- スタッフの認識は、多様な学習者を教育する能力と自信を反映していますか？

生徒代表の教師

学校コミュニティを理解し、反映する学校と学区の職員を配置することが重要であることは調査で明らかになりました(米国研究研究所、2018)。バーリントンでは、教職員は学生団体の代表ではありません。初等中等教育省から以下の情報が報告されました。[人材配置データ](#)
2022-23学年度のフルタイム相当者による人種、民族、性別別。

	District	State
African American	4.0	7,395.4
Asian	15.5	2,838.5
Hispanic	12.6	8,710.3
White	547.1	124,609.2
Native American	0.0	162.7
Native Hawaiian, Pacific Islander	0.0	98.1
Multi-Race, Non-Hispanic	4.8	904.8
Males	88.2	29,731.8
Females	494.8	114,924.5
FTE Count	583.9	144,719.0

多様な労働力の維持をサポートするために、人材採用戦略を策定し、その影響を監視することが重要になります。Learning Policy Institute が発行した研究レポートで概説されているように、有望な実践方法は以下の推奨事項で特定されています (Carver-Thomas、2018)。

最近の出来事によりネガティブな報道が予想されることを考慮すると、文化や気候に関する質問や懸念に率直に取り組む意欲のある、有資格のスタッフを直接採用することが必要となります。採用プロセスにおいて文化的習熟度と包括性を優先する社内採用マニュアルがあります。このリソースでは、偏見の影響を回避するための採用およびオンボーディングのプロセス

におけるベストプラクティスについて概説します。導入にあたっては、このリソースをバーリントンのニーズに合わせてカスタマイズすることが重要です。



推奨事項

- 非伝統的な集団(高校生、パラプロフェッショナル、放課後プログラムのスタッフなど)から教師候補者を採用するプログラムを学区レベルで実施する。
- 多様な採用委員会を創設したり、採用フェアに参加した教師に報酬を与えたりするなど、有意義な方法で有色人種の教師を採用プロセスに参加させましょう。多様な労働力を構築する際には、学校に関係する有色人種のコミュニティメンバーもこの役割を果たすことができます。
- 学区をすべての教育者にとって歓迎的で包括的な空間として提示するための広報計画について話し合います。
- 学校内とより大きなコミュニティ内での成功をサポートするために、帰属意識の醸成、人間関係の確立、文化的に関連したリソースの提供を通じて雇用を継続できるよう、職員のサポートを通じた定着努力を優先します。
- 従業員の多様化と維持をサポートするために、スタッフと地域親和グループの設立を検討します。
- のリソースを確認してください。[マサチューセッツ州教師多様化ガイドブック](#) 現在の採用手順に合わせるため。

スタッフアンケートの回答

バーリントン公立学校の職員 244 名が教育者および職員のアンケートに回答しました。従業員の割合は、各学校や学部の規模と相関していました。

アンケートの質問に対する回答は、トピックごとに以下にまとめられています。

- 所属
 - スタッフの 50% は、同僚が自分のことを完全に理解している、または人間としてかなり理解していると回答しました。
 - 48% はある程度理解されていると回答し、2% はまったく理解されていないと感じました。
 - 興味深いことに、「学校の他の大人たちとどの程度つながりを感じていますか?」、「学校の他の大人たちにとって、あなたはどの程度重要ですか?」という質問に対しても、同じ割合が見られました。「全体的に見て、学校に所属しているとどの程度感じていますか?」

- 回答者の65%は、学校の同僚から多大な、またはかなりの敬意を受けていると報告し、30%は多少尊重されていると報告し、2%は全く尊重されていないと回答した。
- 文化的認識と行動(成人向け)
 - 教職員の48%は、学校指導者が常にまたは頻繁に、異なる文化、民族、または人種の人々について教えるよう奨励していると報告し、42%が時々そうするよう奨励されていると報告し、10%は決してそうするよう奨励されたことがないと報告した。
 - 教育者の65%は、他の文化、民族、人種の同僚が経験していることについて常にまたは頻繁に考えていると報告しました。一度もそうしなかったと報告したのはわずか1%でした。
 - 調査に回答した教育者の約半数が自分の学校に帰属意識を感じていると報告しているにもかかわらず、多様な経験について教えるよう奨励されており、異なる文化、民族、出身者の異なる経験を反映していることに留意すべきである。人種について同僚と正直に会話できる自信があると報告した人種はわずか23%でした。
 - 教育者の38%は、職場で人種関連の話題についてもっと深く考えるよう奨励されていると報告しており、教育者の44%は、不快感を引き起こす可能性がある場合でも、この種の会話を頻繁に行うと回答しています。
 - 回答者の50%は、学校が教育者が人種差別に対して声を上げるのを支援していると回答した。
 - この質問に対して、「いいえ、全く、あるいは全く良くない」との回答が最も高かったのは18%の教育者で、学校は人種差別について声を上げるのに全く役に立っていないと回答した。
- 文化的認識と行動(学生中心)
 - 学生に焦点を当てた質問に対する回答は、スタッフに焦点を当てた質問への回答と関連していました。回答者の50%は、学生には多様な文化、民族、人種の人々について学ぶ機会が少なくとも頻繁に与えられていると回答した。
 - はるかに高い割合の教育者(80%)が、異なる人種、民族、または文化の生徒が経験していることについて少なくとも頻繁に考えていると報告しました。
 - スタッフの48%は、人種に関する話題について学生と自信を持って話し合っていると報告しました。
 - スタッフの23%は、学生が人種に関する話題について深く考えるよう少なくとも頻繁に奨励されていると報告しました。スタッフの10%は、人種に関する重要な会話が頻繁に行われていると報告しました。
 - 質問に文脈が提供されている場合、「」に注意してください。人種に関する重大なニュースがあったとき、あなたの学校の大人はどれくらいの頻

度で生徒とそれについて話しますか？」割合はわずかに変化して 17% になりました。

- 生徒たちが人種差別に反対する声を上げることを学校がどの程度支援しているか尋ねたところ、肯定的に回答した人の割合は教育者よりも低く、18%が学校がこれほどうまくやっていると回答した。学校がまったくうまくいっていないと感じた割合は、職員に焦点を当てた質問と一致しており、18%が「まったくうまくいっていない」と回答しました。
- すべての学生を教育する
 - 教育者の 85% は、自分とは異なる文化的背景を持つ生徒と交流するのは非常に簡単であると報告しました。
 - 81% が、さまざまな背景を持つ人々に関する新しい内容をカリキュラムに組み込むことに興味があると回答しました。
 - 人種に関連する時事問題に関しては、人種について生徒と会話することに抵抗がない教育者の割合は 40% に低下したことに注意してください。
 - また、現在使用されている教材が生徒が多様な視点からコンテンツを理解し、触れるのに役立つと報告した教育者は 57% のみであることに注意してください。
 - 教育者の 69% は、衝突が発生する可能性がある異なる背景を持つ生徒間の関係構築を容易にすることに抵抗を感じていると報告しました。
 - クラス内で多様性の問題が生じた場合、その状況に対処するための戦略を容易に考えることができると報告した教育者はわずか 30% であることに注意してください。
 - 教育者の 55% は、独自の学習ニーズを持つ生徒と協力するためのリソースを見つけることに抵抗を感じないと報告しました。
 - 教育者の 53% は、母国語が独特であるためにクラスの誰ともうまくコミュニケーションが取れない生徒がいることにまったく抵抗がないと報告しました。
- 株式に関する専門的な学習
 - 教育者の 30% は、公平性の専門能力開発が非常に価値があると感じています。
 - 25% は、同僚のアイデアが、文化的に配慮した実践を促進するためのアイデアを提供する上で貴重であると感じました。
 - 教育者の 18% は、専門能力開発が実践における公平性を促進する新しい方法を模索するのに役立つと報告しました。
- 一般的な質問
 - 教育者の 82% は、特別な学習ニーズを持つ生徒と協力する準備ができていると感じていると報告しました。
 - 教育者の 63% が、英語学習者と協力する準備ができていると感じていると回答しました。

- 37%は、学校が排他的かつ包括的な慣行について伝統や行事を定期的に調査していると回答しました。これは、学校の方針と組織文化が包括的および排他的な慣行について定期的に検査されていると報告した割合と関連していました。

調査の質問に対する回答の概要に加えて、質問に応じて提供された情報を認識することが重要です。「多様性、公平性、包括性について他に共有したいことはありますか?」以下の情報は、複数の回答者が同じ意見を共有した場合に提供された情報を総合したものです。これらは直接の引用ではなく、同じトピックに関する複数の引用から取られたものであることに注意することが重要です。より大きなコミュニティを反映していない単一の声を高めることを避けるために、著者は、他のデータソースで三角測量できる可能性があり、5人以上の回答者が同じ種類のフィードバックを共有した回答のみを含めました。

- リーダーシップは公平性に重点を置っていますが、スタッフ、特に地区に最も長く勤務しているスタッフの間で賛同する声はほとんどありません。
- この取り組みに尽力した管理者は解雇され、恐怖の文化を生み出している。私たちはこの作業で後退しています。
- 最大の問題の1つは依然として、DCAPの使用とIEPおよび504への対応策の実装に対するスタッフの抵抗です。
- 私たちには、管理部門の命令に従って会話をぎこちなくリードする部門責任者ではなく、一人称の経験を伴うこの作業に関して専門的なリーダーシップが必要です。
- 教育者は、特に人種に関して、教室での公平性や多様性の問題について議論するスキルを持っていません。
- 私たちに問題はないと信じているスタッフは依然として多く、「色覚異常」の概念を推進することは人種差別に対処する効果的な方法です。
- DEIディレクターが更迭されないための解決策が必要です。これは、この取り組みに対する私たちの取り組みについて、子供たちに誤ったメッセージを送ってしまいます。
- 私たちの学校コミュニティでは不寛容と偏見が増大しており、教職員はどのように介入すればよいのかわかりません。
- 学生の肌の色に重点が置かれすぎていて、神経の多様性については十分ではありません。
- 教育者はこの仕事で非常にさまざまな場所にいます。すべてに対して明確な期待はありません。この作業は縦割りで行われており、多くの人は、それが地区の優先事項であるというよりも、一部の人々の利益に基づくプロジェクトであると見えています。
- 保護者や地域社会の反発があった場合、この取り組みを行うには行政からの支援が必要です。
- 私は教育長の価値観を促進しない科目を教えるために雇われました。
- 二次図書館は、多様な学習者に、より有意義で本格的な書籍の選択肢を提供するという素晴らしい仕事をしてきました。

- メモリアルスクールのスタッフは、2021-22学年度の終わりに起こった出来事の後、依然として脆弱なままです。



推奨事項

- 専門能力開発からのフィードバックは、教育者が調査回答で不足していると特定したスキルを構築するのに効果的であることを確認するために、将来のサービスを計画する際に綿密に検討される必要があります。
- 専門能力開発からの調査フィードバック、教育者の評価からの傾向、および文化的に対応した教育ルーブリックを使用した観察の三角測量を使用して、専門能力開発を調整する必要があります。専門能力開発は、教育者が多様性、公平性、包括性を含む専門学習と生徒の成果目標を達成できるよう支援するように設計される必要があります。
- 文化的に適切な会話を促進する教育者のスキルセットを向上させるために、勇気ある会話トレーニングを学区全体で提供する必要があります。
- 指導的コーチングは、教室の教師が次のことを取り入れる能力を構築することに焦点を当てる必要があります。[文化に応じた持続的な実践](#) マサチューセッツ州 DESE の文化的対応教育ルーブリックを使用。
- DEI 業務におけるすべての教育者の役割は職務内容で定義され、関係者に伝達される必要があります。
- 社内の能力を構築し実践を共有するために、文化的に対応し持続的な実践に焦点を当てた専門学習コミュニティの開発が進められるべきです。
- カリキュラム見直しのための内部システムと手順を見直し、修正して、すべての生徒が学年レベルの基準に沿った厳格なカリキュラムにアクセスできること、カリキュラムに偏見がなく、生徒集団を代表するものであることを保証します。



専門的な学習

セクション 5

- クラス内で柔軟かつ異種混合の統合されたグループ分けを確保するために、教師はさまざまな学習の好みに対応し、競争力と協調性の両方のスキルを育成するためのさまざまな指導アプローチの訓練を受けていますか？
- すべてのスタッフは偏見に対抗するための戦略に関する研修を受けていますか？
- すべてのスタッフは、英語学習者をサポートするために文化的に配慮した実践に関するトレーニングを受けていますか？
- すべてのスタッフは、修復的実践を用いて生徒の成功と幸福をサポートするための、トラウマに基づいたトレーニングを受けていますか？
- スタッフメンバーは、文化に応じたコミュニケーションや、多様な人々と協力する際の効率を高めるための実践に関するトレーニングを受けていますか？

バーリントンスクールカレンダーには、スタッフの専門能力開発に丸一日費やされる4日間が示されています。このスケジュールを考えると、教師は年間最大32時間の専門能力開発に取り組むことができます。

What Works Clearinghouse の証拠基準を満たした研究を調査した際、研究者らは、質の高い専門的な学習が進行中であると指摘しました。年間平均49時間の実質的な専門能力開発を受けている教師は、生徒の成績を約21パーセントポイント向上させることができます (Yoon et al., 2007)。「実質的な」専門能力開発に推奨される時間が不足しているため、既存の学校カレンダー、団体交渉協定、学校カレンダーを調べて、専門能力開発に投資する追加時間を特定することが重要になります。この取り組みを推進するには、学校や教室全体での実施に関するサポートを伴う、包括的での絞った専門能力開発を通じて、すべての教育者の能力を高める必要があります。

学区では、教育者に専門的な学習をジャストインタイムで提供できる指導コーチを雇用しています。学生中心のコーチングサイクルを通じて、彼らの役割をスタッフのニーズに合わせることで、学生の成果を成功の尺度として、包括的で文化的に持続的な実践を実践することに重点を置いたパートナーシップを築くことができます。



おすすめ

- トレーニングを提供するイノベーションコーチ 公平性に重点を置いた職務記述書を改訂し、教師が公平な実践の中で職務に組み込まれた専門能力開発を受ける機会を得ることができるようにする。
- 多層的なサポートシステムで明示的な専門能力開発を提供します。これには、目標を達成するための柔軟な手段を備えた確固たる目標に焦点を当てたレッスンを構築するための学習のユニバーサルデザインに特に焦点を当てることが含まれるべきです。これには、現在 BEAM プログラムを受けている生徒のような生徒が引き続き Tier 1 の指導に挑戦できるようにするためのオプションを提供する計画が含まれます。また、学年レベル未満で勉強している生徒にも学年レベルの指導にアクセスできるオプションを提供することが含まれます。

英語学習者のサポート

S調査結果によると、教師は仕事をする際の効率性が最も低いと報告されています。英語学習者と専門能力開発から恩恵を受けるだろう言語的に多様な学生のニーズに応えます。



おすすめ

- 提供されるオプションと選択肢が厳密であり、関連性があり、文化的に対応し、言語的に適切であることを保証するために、包括的な実践における専門的な学習を提供し続けます。それを保証する包括的な慣行が公平性への取り組みと明確に整合していることが重要になります。
- 文化的感受性、多文化認識、文化的に関連した教育、多様な人々の教育、トラウマ感受性、差別化、包括的な実践、ユニバーサルデザイン、SLIFEの学生との協力に焦点

を当て、ELのニーズに合わせた専門能力開発を提供します。



学生の声

セクション6

公平性監査の一環として、レポートの著者らは、クリスティーナ・クオールズ女史が進行役を務めたフォーカスグループで学生の声を聞く機会がありました。真ん中でそして高校。さらに、4年生から12年生までの生徒を対象に生徒アンケートが実施され、1,659人の回答がありました。

中学校フォーカスグループ

中学校のフォーカスグループには、小グループでクオールズさんと面会した24人の生徒と、1人の生徒が個別にクオールズさんと面会しました。

質問に答えて、「あなたの学校は現在、あなたをサポートするためにどのようなことを行っていますか？」複数の生徒が、進路指導室は役立つスペースであり、頭の休憩が取れ、教師は放課後にサポートしてくれると回答しました。生徒たちは、選択肢があり、休憩や移動の機会が与えられる教室の方が魅力的であると共有しました。

「学校でうまくやるべきで、できていないことはありますか？」と尋ねると、複数の学生は、特に遅くまでの仕事に対する柔軟性、困難な社会情勢を乗り越えるためのサポート、楽しみと学習のより良いバランスが必要だと答えました。

学生たちはまた、BEAMプログラムが学生の選抜方法において不公平であると具体的に指摘した。コースに参加している学生の一人は、「無意味で、ただのELAのクラスのような気がする」と述べた。学生らは、トイレが施錠されているのは不公平だと感じ、結果は一貫性がなく適切ではないと指摘し、なぜ宗教上の祝日をすべて禁止するのかという疑問が生じた。祝われない。

複数の生徒が進行役に、バーリントン「彼らが知っている中で最も白い町」であり、学校がこの町を変える必要があると伝えた。

複数の生徒共有 特に性別に関する攻撃的な言葉が学校で蔓延しています。「あれはとてもゲイだ」という例が挙げられました。

学生たちは、この環境が学生ではなく教師に対して敬意を持ち、認められ、包括的であると感じていると共有しました。これがどのように見えるかの例として、次のものが挙げられます。学生は、学生の学習方法が異なることを尊重することが困難であり、学生のアイデンティティが多数派と異なる場合は尊重されず、学生はなまりをからかい、トランスジェンダーの学生はからかわれます。

高校フォーカスグループ

14人の生徒が高校のフォーカスグループに参加しました。これらの学生は全員、小さなグループに分かれて参加しました。

質問に答えて、「あなたの学校は現在、あなたをサポートするためにどのようなことを行っていますか？」の個別指導プログラム、指導スタッフ、課外授業については何度も言及されました。学生たちは、量よりも質を優先した授業がより魅力的で効果的であると認識しました。学生は特に、上級コースは質に重点を置き、それほど厳密ではないレベルは「忙しい仕事」と表現される量に重点を置いていると特定しました。

「学校でうまくやるべきで、できていないことはありますか？」と尋ねると、複数の学生が、アドバイスは無意味であり、意味を感じていないと認識しました。学生たちは、採点と補填作業をより公平に行う必要があることを認識しました。

複数の高校生が、敬意、認め合い、包摂性の点で環境が改善されたと回答しました。彼らは、声が大きく、批判的で偏見のある少数の目立った学生が依然として存在し、その「社会的地位」を考慮すると、これらの学生に対する説明責任が欠如していることを確認しました。

高校のフォーカスグループでは、生徒たちは一貫して、女子スポーツと男子スポーツの扱いにおいて公平性が欠如していると認識されていました。具体的な例が含まれています。資金提供、両チームの写真撮影は禁止、男子チームと必要が矛盾する場合には女子チームにはバスも提供されない。書類審査と行政面接によると、地区スポーツプログラム内でタイトルIXの申し立てはありませんでした。懸念事項は学生の視点として報告書に盛り込まれています。

中学生と高校生の両方のフォーカスグループに、環境の中に危険を感じるものがあるかどうかを尋ねました。次のような回答が共有されました。

- 有色人種の生徒は(白人の生徒から)疎外されていると感じる
- ラマダンを祝う学生は食事ができないので、カフェに座って人々が食事をするのを見なければなりません。学生らは、このせいで仲間が泣くのを見たと報告した。

- LGBTQに対する生徒からの攻撃的な言葉は、特に中学校で蔓延しています。
- 多くの教師はサポートしたいと思っていますが、どのようにサポートすればよいのか、何を言えばよいのかわかりません。
- ジェンダーに関する固定観念が蔓延しています。「これを拾うのを手伝ってくれる強い男の子が必要だ」という例が挙げられました。
- 教師は自分の意見を教えたり、自分の意見や親の意見が異なる場合に一部の生徒が疎外されていると感じさせてはなりません。
- 学校では世界で実際に何が起きているかについては話しません。
- 教師は服装などの固定観念に基づいて子供たちを判断します。

学生アンケートの回答

生徒アンケートは学校内で4年生から12年生までの生徒全員を対象に実施されました。生徒の参加に先立ち、保護者には同意書が渡されました。1,659人の学生がアンケートに回答しました。2023年の入学者数に基づくと、バーリントン公立学校の4年生から12年生までの生徒の合計(正確な数を入力)が在籍しています。回答者のデータは、参加した学生の人口統計という点で学区のデータと一致していました。

- 「あなたの性別は何ですか？」という質問に答えると、回答者は5名。7年生の1人、8年生の4人、10年生の1人が自分の性別と、バイナリまたはジェンダーストリックの概念に対する不満を反映した声明を回答しました。回答が含まれています。「あなたはあなたそのものだ」「性別は選べない」「性別は一つしかない」。
- 「家では何語を話しますか？」という質問に、9年生から12年生の生徒12人がアメリカ語と答えました。この質問に対する回答は以下のとおりです。
 - 「アメリカ人、こうあるべきだ」。(9年生)
 - 「これらの質問のせいで、人種問題を乗り越えることができました。」(11年生)
 - 「奴隷制度は200年前に終わったのだから、もうやめなさい。」(グレード10)
 - 「アメリカ人は私は不法滞在者ではありません」(8年生)
 - 上記の2つの質問は、学生がアンケートに記述できる唯一の機会であったことに注意してください。
- 学生の89%は答えるd彼らは学校でほとんど常に、または頻りに他の人種、民族、または文化の生徒と一緒に時間を過ごします。学生の82%は、学校では異なる人種、民族、文化の学生がほぼ常にまたは頻りに交流していると回答しました。学生の86%は、ほぼ常にまたは頻りに、異なる人種、民族、または文化の学生と授業を受けていると報告しました。学生の80%は、学生には他の人種、民族、または文化の親しい友人がいるのは、ほぼ常に、または頻りに一般的であると報告しました。
- 回答者の80%は、異なる人種、民族、文化を持つ学生はお互いを公平に扱っていると報告しました。成人は治療を受けたと報告されている

- 学生の57%は、異なる人種、民族、文化について学ぶ機会がほぼ常にまたは頻繁にあると回答しました。



おすすめ

- 学生の声重点分野を推進する、公平性に関する学生主導のグループの導入を検討してください。プログラムの例としては、[スピリットプログラム](#)司法省を通じて。これらのグループの重要性は、生徒が自分たちにとって意味があり関連性のある課題を特定し、解決策を自分のものにすることです。
- 特に公平性と多様性の問題に対処するために、中学校と高等学校で修復的司法プログラムを実施する。
- 生徒には、バーリントンの実際の人口統計を一人称の視点から、特に学校内の多様性について学ぶ機会が与えられるべきです。この多様性は称賛され、認識されるべきです。
- 発達に適した構造を備えた権利擁護室モデル4-12を開発します。人口統計の観点から生徒の比例代表を確保します。メンバーが生産的な対話を行い、自分たちの役割を理解するためのトレーニングを組み込みます。
- 公平性、多様性、包括性の問題について学生のフィードバックを収集するという一貫した実践を実施し、すべての声を聞くための障壁を取り除きます。
- 株式のコース、課外活動、運動競技の参加と登録データを分析します。不均衡な参加をもたらす障壁が存在する場合、相棒一人称視点でそれらを削除する経験がある人と一緒に。
- 学習のユニバーサルデザインを指導モデルとして実装します。であるという概念について生徒を教育する「[専門的な学習者](#)」「[専門家](#)」とは対照的に、エンゲージメントを高め、学習の違いを尊重します。

結論

学区の公平性への取り組みは、以下のことから明らかです。成功のための地区計画。推奨事項の多くは優先順位付けされ、現在および計画中の取り組み。現在進行中の作業を補足するために、このレポートは調査に基づいた推奨事項を提供しています。サポートすべての学習者、特に有色人種の生徒、英語学習者、経済的に恵まれない生徒s。この報告書の推奨事項により、学区は重要かつ時宜にかなった道を歩むことができます。彼らは学生を保証します言語的に適切で、文化的に対応し、トラウマに配慮し、普遍的に設計された、包括的で厳格な教室にアクセスする公平な機会があります。

公平性、多様性、包括性が活動を推進する文化を確立しようとする学校指導者の意図は賞賛に値しますが、その影響は一貫して感じられていません。このレポート全体で詳しく説明されているように、今後はそれが重要になる地区のために仕事のあらゆる側面で導入できる高いレバレッジの実践に焦点を当てます。指導的には、練習 学びのユニバーサルデザインなど忠実に埋め込む必要がある 包括的かつ公平性を推進するために教室 ここでは、すべての学習者が学年レベルの基準と厳格な指導を受けることができます。文化的には、改善の道を歩み続けるためには、多様なスタッフ集団に対する強力な定着および採用計画の策定などの実践が不可欠です。

この作業の成功の尺度は、さまざまな測定ツールに基づくすべての生徒の成果である必要があります。すべての行われた推奨事項とその後に実行されるステップ 最終的には学習環境を改善することですそしてすべての人にとってポジティブな結果を保証します。他の学校改善活動と同様に、成功の尺度は学習への影響であるべきですサービスを受けている生徒たちの様子。



鍵

推奨事項

- 学区の使命とビジョンを調整し、進行中の戦略的取り組みをサポートするための教育の公平性を具体的に明確にします。
- 家族や学習者との定期的なリスニングセッションの構造と手順を作成し、その言語を話し、多様な家族と同じ文化を持つコミュニティメンバーの価値を活用します。

- リソースのレビューには、特定の学校で利用可能な上級コースワークの監査と、参加と成功のデータの理解が含まれる必要があります。
- 学生の試験への参加率や合格率など、上級コースワークに関連するその他のデータを分析し、これらのデータを使用して、最もメリットが得られる学生向けの上級コースワークの拡張や準備をターゲットにします。
- 非伝統的な集団（高校生、パラプロフェッショナル、放課後プログラムのスタッフなど）から教師候補者を採用するプログラムを学区レベルで実施する。
- 公平な実践に関する指導コーチにトレーニングを提供し、公平性に重点を置くよう職務内容を改訂し、教師が公平な実践の中で職務に組み込まれた専門能力開発を受ける機会を得ることができるようにする。
- 多様な採用委員会を設立したり、採用フェアに参加した教師に報酬を与えるなど、有意義な方法で、有色人種の教師、学生、地域住民を採用プロセスに参加させます。
- 提供されるオプションと選択肢が厳密であり、関連性があり、文化的に対応し、言語的に適切であることを保証するために、包括的な実践における専門的な学習を提供し続けます。インクルーシブな実践が公平性への取り組みと明確に整合していることを保証することが重要です。
- 文化的感受性、多文化認識、文化的に関連した教育、多様な人々の教育、トラウマ感受性、差別化、包括的な実践、ユニバーサルデザイン、SLIFEの学生との協力の焦点を当て、ELのニーズに合わせた専門能力開発を提供します。
- カリキュラム見直しのための内部システムと手順を見直し、修正して、すべての生徒が学年レベルの基準に沿った厳格なカリキュラムにアクセスできること、カリキュラムに偏見がなく、生徒集団を代表するものであることを保証します。。

- DCAP を改訂し、学生の成功に向けて積極的に Tier 1 を設計することに重点を置きます。[加速ロードマップ](#)そして、地区の公平性の重視に沿ったものとなっています。
- 社会感情学習のためのすべてのシステムとプロセスを公平性の観点から見直し、公平性への確固たる取り組みに導かれるように地区プログラムのプロセスと手順を改訂します。
- 教室やより大きなコミュニティでのすべての作業を推進する MTSS システムを確立します。
- この作品に関するコミュニティ全体 (たとえば、1つの書籍と1つのコミュニティ) での学習の機会を検討してください。

参考文献

- アメリカ研究機関 (AIR)。(2018年)。家族の公平な関与のための戦略。から取得
https://oese.ed.gov/files/2020/10/equitable_family_engag_508.pdf
- アングリム、J.、プレndeヴィル、P.、キンセラ、W. (2018)。自閉症スペクトラム障害を持つ子どもたちの受け入れを支援する小学校教師の自己効力感。教育心理学の実践、34(1)、73-88。
- アスペン研究所。(2018年)。高度なコースワークへのアクセスを増やす。から取得
<https://assets.aspeninstitute.org/wp-content/uploads/2018/04/ESSA-IncreasingAccessstoAdvancedCoursework.pdf>
- カーバー・トーマス、D. (2018)。教職の多様化: 有色人種の教師を採用し維持する方法。から取得
<https://learningpolicyinstitute.org/product/diversifying-teaching-profession-report>
- 中部大西洋株式コンソーシアム (MAEC)。(2020年)。株式監査。から取得
<https://maec.org/resource/equity-audit-materials/>
- ニューメキシコ州ストラスフィールド (2017)。IDEA の将来: 特殊教育における少数派の生徒の不均衡な表現と意図的な差別の申し立ての監視。から取得
<https://scholarlycommons.law.case.edu/cgi/viewcontent.cgi?article=4721&context=ケースレブ>
- 教育統計に関する全国フォーラム (2016)。人種/民族サブグループに関する細分化されたデータの収集と使用に関するフォーラム ガイド。から取得
<https://nces.ed.gov/pubs2017/NFES2017017.pdf>
- TNTP。(2018年)。機会に関する神話: 学校がどのように自分たちを失望させているかについて生徒たちが教えてくれること、そしてそれを修正する方法。
https://tntp.org/assets/documents/TNTP_The-Opportunity-Myth_Web.pdf
- Waitoller, F. & Kozleski, E. (2013) 境界実践に取り組む: インクルーシブ教育のためのパートナーシップにおけるアイデンティティ開発と学習。教育と教師教育 31:35-45。
- Yoon, K.S.、Duncan, T.、Lee, S.W.-Y.、Scarloss, B.、および Shapley, K. (2007)。教師の専門能力開発が生徒の成績にどのような影響を与えるかについての証拠をレビューする (Issues & Answers Report、REL 2007-No. 033)。ワシントン DC: 米国教育省、教育科

学研究所、国立教育評価および地域支援センター、南西部地域教育研究所。から取得<http://ies.ed.gov/ncee/edlabs>